

# “おひさま発電”点灯

## 城陽市立久世保育園

優しい自然エネルギー

あんどん

# 園児手作りの行燈に光

清仁10キロWパネル63枚設置  
福祉会

社会福祉法人清仁福祉会が運営委託を受けている市立久世保育園(松岡和子園長、173人)で29日、「おひさま発電点灯式」が開かれ、在園児をはじめ来賓、卒園児、地域住民ら数多くの人々が、環境に優しいシステムの完成を祝った。

NPO法人きょうとグリーンファンドの協力のもと、各関係機関などの理解を得ながら同園に太陽光発電装置を設置する事業で、5月26日に「おひさま発電をつくろう」の集いが行われ、6月17日から先月2日までの期間で工事が行われた。同園の屋根には10kW規模のパネル63枚が取り付けられ、パネル一枚一

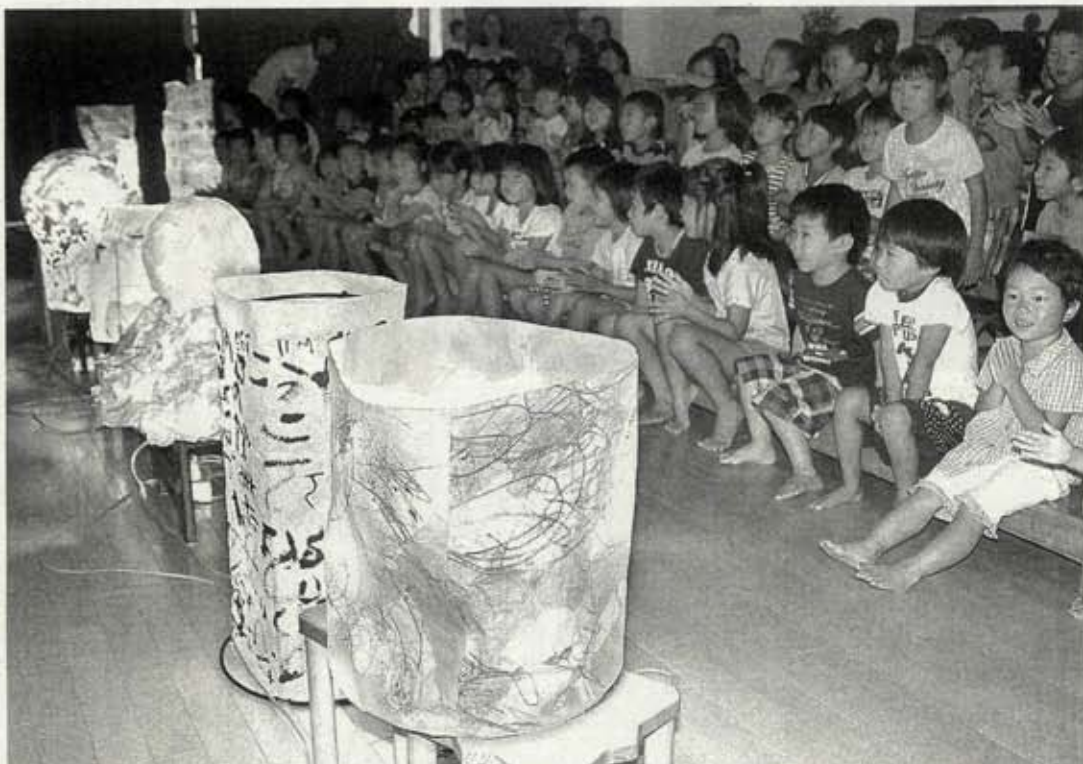
枚には、園児たちや保護者、寄付した人の名前やイラストが描かれた。

同園では生活リズムを大切にしながら自然の中で、思い切り遊ぶことや一人ひとりが計画性や工夫する力を養うを基本に、園児たちに生きる力を身につけさせることに重きを置いて保育を展開している。

この日の式典では、松岡園長が「きょうは保育園内に植えていたブドウが収穫できました。点灯式の記念に、皆さんと先生と一緒にブドウを採って楽しみましょう」と話した。さらに点灯の喜びを、宝物としてしっかりと心の中に入れて下さい。大人になったら、おひさまが照ったり、雨が降ること喜びを感じ、私たちが

を大きくしてくれるという実感が持てる人になりましょう」と園児らに呼びかけた。

そのあと、NPO法人きょうとグリーンファンド板倉豊理理事長は「環境教育の拠点になってくれれば、地域の方の協力を、ひしひしと感じました」と話したあと、府文化環境部環境・エネルギー局地球温暖化対策課高屋奈尾



太陽光で点灯した園児たち手作りの行燈

子課長、市長代理の小嶋啓之・市福祉保健部長が祝辞を添えた。また、畠山智子さんが環境腹話術「しんちゃんのおひさまマン」を披露したあと、園児たちが「手のひらを太陽に」の歌声を響かせた。点灯式では、設置が完了した太陽光パネルからの自然エネルギーを使って、手作りの行燈(あんどん)に灯が点せられると、大きな歓声が沸き起こった。

続いて、園児らは玄関ホールに移動し、電光掲示板を除幕。最後に園舎の屋根上の太陽光パネルを背景に記念撮影も行われ、園の関係者が待ちに待った完成を喜び合った。同保育園の上辻江里子主任は「これをきっかけに園児たちが環境への関心を持って、計画を進めてきました。これで終わりではなく、これから本当のスタートです」と話し、NPO法人きょうとグリーンファンドの大西啓子理事・事務局長も「設置したから終わりではなく、次へつなぐことが大切」と、おひさま発電の輪がさらに広が

ることに期待した。この取り組みに関する問い合わせは同法人きょうとグリーンファンド。TEL075-35219150まで。